

公立幼稚園として

大網白里市立大網幼稚園園長 やまざき かずよ 山崎 和代



1 はじめに

現在、本市には、公立幼稚園が4園あり、令和7年度には、統合とこども園化により2園になる未来が待っている。本園は令和5年度末をもって、73年の歴史に幕を下ろす。

社会や文化が急速に変化し、保育がサービス化している昨今、本園の就園数は年々減少し、今年度は45名の在籍だ。子供は、毎日手作り弁当と、保護者の送迎で通園している。保護者や地域の方々は、「子供たちの為」「短い幼児期を親子で一緒に楽しみたい」と惜しめない協力を頂き、地域の園として大切にされている。私自身も本園を卒園した。縁あって、このタイミングに園長をさせていただいていることに深く感謝している。

2 毎日の園生活

本園の教育目標

「すこやかな心と体を育てる

～げんきいっぱい遊ぶ子

友達と仲良くできる子

自分で考え行動する子～」

毎日の園生活は遊びが中心だ。子供が人として当たり前のこと（基礎）を身に付けられるよう、教師も共に生活している。子供へのまなざしはあたたかく、一人一人の理解に努め、必要な援助や環境を用意している。もちろん、保護者との対話も欠かさない。一つ一つがやわらかな手仕事ともいえよう。「遊び」という言葉には、いろいろな意味があるが、大人の「遊び」と幼児の「遊び」は、もちろん大きく異なる。子供にとってそれは生活そのもの。子供は、教師のあたたかな真心から

生じる優しさに包まれながら生活している。

3 公立幼稚園の役割と使命

本市で生まれ、本市で育つ幼児期の育成は、公立幼稚園の大きな役割だ。近年、園開放日には、保護者に傾聴する機会が増えている。身体面（言語、排せつ行動等）、情緒面に凸凹が大きく、多様化している。保護者は、そんな我が子の姿を、幼さと受け止めたい反面、育てづらさのはざまに葛藤している。このような状況を踏まえ、教師は個々の発達を受け止め、応えることが求められる。そこで、市内の公立幼稚園に勤める職員で、自ら研修の企画と運営をし、学んで実践に役立てている。インクルーシブなあたたかい生活を目指し、子供同士も多様な出会いを当たり前にしていく。今後も愛され続ける公立幼稚園として、大きな役割であり使命である。

4 おわりに

人を木と例えると、幼児期は木の根っこだ。ガス管や水道管も地中にあって、うっかりその存在を忘れてしまう。でも、見えないものこそ重要だ。幼児期は、誰にも評価されることのない、曖昧さを楽しむ時間である。私は、子供がそれを自由に使えるよう保障したい。

将来、幼児教育機関は減少し、そのカタチも変わっていくであろう。しかし、公立幼稚園が、どの親子も安全安心にたっぷり遊ぶことができる時間と環境を保障するということは変わらないと思う。これからも、根っこをしっかり張り巡らすことができるよう、ささやかな毎日をつむいでいきたい。